

コーポレートファイナンス論		講義	教授 矢島 格	
科目カテゴリー	会計ファイナンスコースの 専門選択科目 教職科目	科目ナンバリング		23020203 25320227

1. 授業のねらい・概要

企業にとっての金融活動（資金調達、利益配当、買収・合併など）について研究するコーポレートファイナンス論（企業金融論）の基本的な考え方を説明する。日本における企業金融の現場で実際に起きた事例を挙げながら、一般的な基礎理論をできるだけ平易に説明する。なお、本科目の履修にあたっては、「ファイナンス入門」を履修しておくことが望ましい。

2. 授業の進め方

テキストの内容に沿った講義形式を基本とするが、随時、新聞・雑誌の記事から具体的な出来事を取り上げて実践的な説明も行う。また、理解の定着を図るため、簡単な練習問題（穴埋め問題）も課すことにする。

3. 授業計画

1. 企業金融とは何か	9. 借入金（4）（保証）
2. 企業の資金需要	10. 社債（1）（社債の種類）
3. 資金調達の形態	11. 社債（2）（公募債と私募債）
4. 財務諸表の見方	12. 社債（3）（格付け）
5. キャッシュフロー	13. 株式（1）（株式による資金調達）
6. 借入金（1）（借入れの種類と返済方法）	14. 株式（2）（企業の合併・買収）
7. 借入金（2）（借入金利とメインバンク制）	15. アセット・ファイナンス
8. 借入金（3）（担保）	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の授業を受講するまでに前回の授業内容を、配布プリントやノートを使って復習しておく。さらに、指示された練習問題にも解答しておく。なお、これらの準備学修には、2時間以上が必要である。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポート提出時に採点・評価のポイントを説明する。

6. 授業における学修の到達目標

企業金融の基本的な概要を理解して、金融の観点から企業について評価できる。

7. 成績評価の方法・基準

授業への取り組み姿勢（50%）およびレポートの結果（50%）によって、評価する。

8. テキスト・参考文献

テキストは、中島真志（2015）『入門企業金融論』東洋経済新報社を使用するので、毎回の授業に必ず持参すること。また、参考文献は適宜紹介する。

9. 受講上の留意事項

受講の要件としては、金融・ファイナンスの基礎知識があることが望ましいが、そうでない場合も、理解できるように説明する。疑問や不明な点については、遠慮なく質問してもらいたい。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は、金融機関における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。